

2022年11月30日

一般財団法人 化学及血清療法研究所

2022年度『化血研研究助成』及び『化血研若手研究奨励助成』の 助成対象者が決定しました

一般財団法人 化学及血清療法研究所（理事長：木下 統晴、所在地 熊本市中央区）は、このたび開催されました理事会において、2022年度『化血研研究助成』6件、『化血研若手研究奨励助成』10件、計16件の助成対象者を決定いたしました。

各プログラムの「助成対象者一覧」、および選考委員長からの「審査講評」は下記の通りです。

記

【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：3,000万円（1,000万/年×3年間）/件

助成期間：3年

採択件数：6件（申請件数97件：採択率6.19%）

助成対象者一覧

【化血研研究助成】

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
伊藤 美菜子	九州大学 生体防御医学研究所	准教授	血液中に存在する脳梗塞後の自己抗体や炎症抑制因子の探索
坂田（柳元） 麻実子	筑波大学 医学医療系	教授	加齢を素因とする悪性リンパ腫の発症機序の解明
園田 康平	九州大学 大学院医学研究院	教授	本邦に特徴的なCMV血症・眼感染症眼内液由来CMVゲノム解析と抗CMV免疫の解明
原 博満	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科	教授	TREM2を介した結核菌の許容的Mφの誘導と持続感染機構の解明
三原田 賢一	熊本大学 国際先端医学研究機構	特別 招聘 教授	hnRNPのストレス顆粒形成による造血幹細胞の防御機構
吉川 哲史	藤田医科大学 医学部	主任 教授	腸管粘膜免疫誘導能向上のための最適な宿主環境の解明

【化血研若手研究奨励助成】

感染症(人獣含む)領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300万円 (年間300万円)/件

助成期間：1年

採択件数：10件(申請件数140件：採択率7.14%)

助成対象者一覧
【化血研若手研究奨励助成】

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
青山 和正	東京大学 医科学研究所	特任 助教	ポリコム抑制複合体2機能低下型骨髄異形成症候群のがん幹細胞維持機構の解明と新規治療標的分子の探索
井上 毅	大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター	特任 准教授	COVID-19 mRNA ワクチンブースター接種による変異ウイルス中和抗体産生機構の解明
遠藤 裕介	かずさ DNA 研究所 先端研究開発部	室長	単一細胞レパトア-脂質オミクス解析による抗ウイルス応答メカニズムの解明
越智 陽太郎	京都大学 大学院医学研究科	助教	エピゲノム多様性に着眼した白血病の病態解明と患者層別化
木村 俊介	慶應義塾大学 薬学部	准教授	インフルエンザ感染における呼吸器 M 細胞の役割
小泉 真一	九州大学 生体防御医学研究所	助教	インフルエンザウイルス感染防御における炎症性線維芽細胞の役割解明
高島 謙	熊本大学大学院 生命科学研究部	助教	B細胞の分化・機能の制御における「内在性ヒストン模倣因子」の役割
田久保 圭誉	国立国際医療研究 センター研究所	プロ ジェクト長	正常造血幹細胞および白血病幹細胞の単一細胞レベルの代謝多様性の同定と制御機構解明
細川 裕之	東海大学 医学部	准教授	RUNX 転写因子を中心とした転写制御ネットワークによる T 細胞の運命決定とその破綻による T-ALL 発症メカニズムの解明
松田 重輝	大阪大学 微生物病研究所	准教授	クロストーク分泌型細菌毒素の作用機構の解明

審査講評

化血研財団は昨年度に引き続き、本年度（2022）も、感染症領域および血液領域を対象とした研究に対して助成を行いました。候補者との面接審査はできませんでしたが、昨年同様、両分野から、14名の選考委員により、2段階にわたる書面審査で選考を実施しました。コロナの収束を迎え、今回は、初めて、審査委員が一堂に会し、審査ができました。両方で237件の審査があり、研究助成6件、若手（45歳未満）研究奨励助成10件が採択されました。いずれも採択率が6-7%という、きわめて厳しい競争結果になりました。審査の基準としては、科学的に優れた研究であることの他に、同点であれば、独立して研究室立ち上げ中の若手、さらには女性研究者の優先を考慮しました。上位にランクされた研究申請に関しては、選考委員14人で、活発な議論を交わしました。この議論は、感染と血液の両分野の研究の価値観や研究の進め方について、考え方を共有する場でもあったと思います。優れた研究であっても、現在遂行中の大型研究費テーマとは重複しないことを優先しました。

前にも書きましたが、本研究助成は、数年後に、感染症・血液の領域において、50人近い研究者が助成を受けることとなります。その方々が、日本の、あるいは世界の感染症・血液研究の一翼を担う成果ならびに人材となることを、目的として、今後も、本研究助成の審査に寄与できればと考えています。

2023年は、ステップアッププログラムが導入され、より若手のサポートが強化されると聞いております。

選考委員長

熊本大学 国際先端医学研究拠点・拠点長
シンガポール国立大学・教授

須田年生

以上